



花き生産情報第1号

平成27年4月20日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

ハウスなどの施設内の温度変化が激しい時期です。適正な温度管理等により高品質な花きを生産しましょう。

夏秋ギク

1 生育状況

8月上旬出荷の作型で使用する苗の生育は順調で、定植作業は予定どおりに進むと見込まれる。病害虫の発生は特に見られない。

2 今後の作業

(1) ほ場の排水対策

融雪水が停滞しているほ場では、排水対策を充分に行い定植に備える。

(2) 育苗

ア 挿し芽後は、10～25℃を目安に、こまめな換気等を心がける。定植1週間前からは徐々に低温に慣らし、順化させる。

イ 過湿などによる白さび病の発生が懸念されるため、苗の定植前に予め薬剤散布を行う。

(3) 定植

ア 前年にミカンキイロアザミウマが発生したほ場や施設周りでは、定植前に古株や雑草などの残さを徹底的に片づける。

イ 8月上旬出荷の作型では、定植作業を4月下旬から5月上旬までに行う。

ウ 老化苗は、生育が劣るので使用しない。

(4) 定植後の管理

4月から5月は、施設内の温度が急激に変化するので、換気をこまめに行い、適正な温度管理に努める。また、低温や降霜が予想されるときは、保温資材で被覆する。

トルコギキョウ

1 生育状況

越冬栽培の生育は、全般的にやや早まっている。

苗の生育は順調で、定植作業は平年並みの3月下旬から始まっており、今後6月にかけて順次行われる見込みである。

2 今後の作業

(1) 育苗管理

ア 種子の発芽適温は20～25℃なので、25℃を目標に管理する。発芽が揃った後は、徐々に温度を下げ、生育適温の15～20℃で管理する。

イ 育苗中は用土が乾燥しないように十分かん水する。

(2) 定植床の準備

ア ほ場は、連作にならないように選定する。

土壤病害の発生が見られ、土壤消毒を行ったほ場では、土壤中の窒素の発現が変化するため、基肥の量を調整する。

イ 土壤酸度の矯正、基肥の施用は定植2週間前までに済ませ、土に十分なじませておく。

ウ 初期の水分が不足すると根の生育が抑制され、短茎で開花するなど、切り花品質が劣るので、うねを作る前から水分が下層部へ行き渡るように十分かん水する。

エ 作業ができる程度に乾いたらうねを作る。定植作業まで間があり、乾燥の恐れがある場合は、うね面に被覆資材を張り乾燥を防止する。

(3) 定植

ア 定植前に土を十分湿らせ、活着促進のため地温は12℃以上を確保しておく。定植後は土を落ち着かせるようにかん水して活着を早める。

イ 8月上旬出荷の作型では、4月下旬を定植の目安とする。本葉が4枚展開するまでに定植する。

花き生産情報第2号は平成27年5月20日発行の予定です。

春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

決め手は土づくり！「日本一健康な土づくり運動」展開中！

◎農薬危害防止運動（5月1日～8月31日）

1 ラベルの記載事項を守りましょう。

2 防護服をしっかりと着用しましょう。

3 周辺環境への配慮をしましょう。

～農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)～